

# 農地機構だより

～人と農地をつなぐ～ 第23号

(公財)しまね農業振興公社  
(農地バンク)

2020年 9月 発刊  
松江市黒田町432番地1  
0852-20-2871

今回は区画拡大や暗渠排水等の耕作条件の改善を図る事業(農地耕作条件改善事業)により効率的な営農を行っている会社法人を紹介します!!

## 松江市下佐陀町 ～ライスフィールド株式会社～

代表取締役の吉岡雅裕さんにお話を伺いました。(インタビュアー:県公社 平塚、中川、坂本)

### Q 法人の概要は

- A**
- 社員…社長を含め 14 人  
平均年齢：約 40 歳
  - 作目…水稻、WCS
  - 経営面積…175ha



代表取締役 吉岡雅裕さん

### Q そもそも、中間管理事業を活用するに至ったきっかけは？

- A** きっかけは、行政関係者に活用を薦められたこと。活用してみて、賃借料の収受や支払いを公社が行ってくれるので営農に集中ができ、すごく助かっている。現在では、経営農地のほとんどで中間管理事業を活用している。

また、農地耕作条件改善事業のような中間管理事業の活用を図りながら実施する事業もあること。

農地利用集積円滑化事業の活用分がまだ少し残っているが、期間終了になればその都度中間管理事業に切り替えていく。

### Q 農地耕作条件改善事業の活用内容は？使いやすい？

- A** 当該事業は事業創設時から活用している。活用内容は主に畦畔除去と暗渠排水。要望から事業実施までが短期間でスピーディーなのがメリットと考えている。昨年は2箇所実施した。今後も実施する予定。

当法人としては良い事業だと思っているが、実施に当たって書類や写真の量がとても多く、業者の事務量が煩雑と聞く。簡素化に期待している。



事業実施前



事業実施後

## Q 中間管理事業に望むことは？

- A** 県内で更に中間管理事業の活用量が増えると公社の事務がパンクするのではと心配している。事務がスムーズに進むよう人員の拡充を希望する。  
また、出し手や山間部の受け手だけでなく、平場の受け手にも支援をしてほしい。

## Q 最後に、今後の展望、思いを聞きました！

- A** R4年には古江地区を当法人一本に集約する予定。集約化に伴い、人員を増員する必要がある。従業員の雇用は主に職員の声かけで進めてきた。よく知った職員の紹介であれば安心できる。従業員の定着率を高めるためには賃金、社会保障をしっかりと確保する必要がある。この他、施設整備も行う予定。  
これからもサポートをお願いしたい。



ライスフィールド有限会社の社員のみなさん

## 編集後記



前回に引き続き元気な法人を紹介させていただきました。いかがでしたでしょうか。

社員の皆様が作業の効率化のために主体的に動いていらっしやっただのが印象的でした。

吉岡様、ご多忙の中取材にご協力いただきましたこと、心よりお礼を申し上げます。  
(T・N)

